

1 今年（H29）の傾向

総評・講評（大問毎に）

例年とおり大問3問構成であった。

①  $\text{NH}_3$  をテーマとした理論の総合問題。

出題範囲は化学平衡を中心に反応速度、中和の量的関係まで含まれる。計算過程を書かせる設問が1つある他は解答のみを書かせる形式であった。

①では毎年受験生の思考力を問う設問が見られたが、今年度はそれがなく、基本と通りに処理できる問題のみとなり、例年よりも易化した。

問5(2)の量的関係の計算、問7で考える溶液が緩衝溶液であることを正確に処理できたかが差になると思われる。

② Fe をテーマとした無機化学と理論の混合問題

理論分野は系晶と電気分解で、いわれてよく見られる問題であった。

無機分野は後半の鉄のさびの原理とその確認の突馬臭がやや程度が高いことを除けば基本的な知識を問う設問であった。

問6の色の選択問題が大半の類題で薄い赤色やピンク色と書かれている

ためとまとめた受験生がいたものと考えられるが、難しい設問はなく、高得点が求められる。

③ ヒドロキシ基を有する有機化合物の構造決定。

昨年 - 昨年と真逆問に区分される出題が系統いたが、今年度は大幅に易化した。分子式が  $\text{C}_4\text{H}_{10}\text{O}_2$  と小さく、ヒドロキシ基を有すると対象が絞られているため、総当たりでも正答にたどりつくことは容易である。問8がヒニロン合成で使われるアセタール化であることに気づけたかで差がつくと思われる。

全体として、昨年までに対して易化したと考えられる。特に医学部では余計な失点が大きく響いてくると考えられる。他学科でも標準問題の演習量の差が出るものと考えられる。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

文学部	％
教育学部	％
法学部	％
経済学部	％

【理系】

理学部	70％	歯学部	70％
工学部	70％	薬学部	70％
医学部	85％	農学部	70％
保健／看護	70％		
〃 検査	70％		
〃 放射線	70％		

3 来年受験する生徒へのアドバイス

理論分野は標準な問題を中心に構成されることが多いため、標準レベルの問題の演習をしっかりと積んでほしい。今年度は出題がなかったものの、思考力が問われる設問があることが多いため、ただ問題を解くだけでなく、その解き方で何故解けるのかといった部分も意識してほしい。

無機分野は例年関連する理論分野も含めて出題されている。近年は基本的な知識などを中心に解きやすい設問で構成されることが多く、高得点が予想されるということが系統化している。知識をしっかりと習得し、結晶や電池といった関連分野とあわせて確認をしていくことが求められる。論述問題が出題されることも多いため、説明する練習も普段からやってほしい。

有機分野は毎年構造決定が出題されている。年度による難易度の変化が激しく、昨年度のように大半の受験生が手も足も出なくなることもありえる。しかし、基本は実験の文章を言読み、そこからその物質が取りうる構造の条件を整理していくというところにあるので、様々な構造決定の問題をその点に注意しながら解くという演習を積んでほしい。

理科は二教科150分という出題であり、実際に解く上では時間不足になりやすい。普段から時間を意識した演習を重ね、過去問で時間の使い方の練習をしてほしい。